

東日本大震災1年

図書館の役割 企画展で紹介

岡山

東日本大震災発生から11日で1年となるのに合わせた企画展が、県立図書館（岡山市北区丸の内）で開かれている。18日まで。4日

までの前期展では、図書館運営の視点から被災地で図書館が果たした役割、復旧の様子などを伝えている。

写真、新聞記事など約50点。被災地の図書館活動では、宮城県気仙沼市の小学校に図書館がボランティアを派遣し、被災児童を癒や

すための読み聞かせ活動を展開したことを紹介している。

津波で流された宮城県南三陸町図書館が厳しい状況でも仮施設を整え、全国から寄贈された約3千冊で再開するまでの取り組みも取り上げた。

岡山市東区松新町の主婦吉井明美さんは「読書を通して子どもたちに希望を持ってもらいたいと願う関係者の気持ち伝わってきた」と話していた。

6日からの後期展は国際医療ボランティアAMDA（岡山市）の支援活動についての展示、岩手県民が津波のすさまじさをとらえた映像などがある。



震災から1年に合わせ県立図書館が開いている企画展